

第 55 回 関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会東京大会参加報告

平成 26 年 11 月 13 日(木), 14 日(金)の二日間にわたり東京大会が開催された。1 日目の全体会は、パイオルガンのある荘厳な雰囲気のある「すみだトリフォニーホール」で行われ、基調提案等の開会行事の後、新日本フィルハーモニー交響楽団のオーケストラによるコンサートや淑徳大学教授 北野 大 氏による講演「北野大教育論」を聴き、改めて現在の教育について考えた。

2 日目は午前 9 時 40 分から午後 3 時 50 分の日程で、「飯田橋家の光会館コンベンションホール」を会場に第 4 課題「組織・運営に関する課題」第 4A 小学校分科会が行われた。

本分科会では、山梨県より宮澤 (山梨市立後屋敷小学校) が「教育特区の取組における組織・運営について」、東京都より赤羽幸子副校長(東京都武蔵野市立井の頭小学校)が「組織運営の活性化に関わる副校長の役割」を主題として提言したものをもとに、136 名が参加し、活発に終日研究協議が行われた。

午前中行われた山梨県の提言では、「小学校英語科教育推進における教頭の役割」をサブテーマとして、山梨市の小学校英語科推進の組織や事業、また市内各小学校の課題と解決策の実践例、更には、市内全教員に実施した意識調査から見いだした実情と課題について、調査結果をグラフとしてまとめた追加資料を用いながら提言報告した。各都県の先生方の小学校英語に関する意識も高く、会場からの質問も多く出された。第 1 提言では、分科会協議の柱を①教育委員会からの課題や教育施策に対応し、どう組織運営を行っているか。②教育委員会からの課題や教育施策に対応し、学校教育の中にどのように生かしているか。とし、参加者が 14 のグループに分かれ、各グループ毎に活発な情報交換と研究協議がされた。提言 1 のまとめとして、千代田区教育委員会 高橋美香統括指導主事より「管理職の姿勢で変わる事」、「課題が見えないと解決につながらないこと」、「情報を共有できる組織と場の重要性」、「変わっていくものは活性化のチャンスであること」等、山梨の実践を評価した講評と指導助言をいただいた。

午後からは東京都武蔵野市の実践が提言された。「職層に応じた人材育成を通して」をサブテーマとし、東京都 OJT ガイドラインを基にして、4 段階の職層とした「基礎形成期」「伸長期」「充実期」「主幹教諭」の現状と課題分析と実践事例報告があった。第 2 提言では、分科会協議の柱として、①日々の OJT をどのように仕掛けているか。②職層に応じた人材育成の課題。とし、午前中同様、参加者が 14 のグループに分かれ、各グループ毎に活発な情報交換と教員が意欲をもち活性化する工夫など協議された。提言 2 のまとめとして、渋谷区立中幡小学校 宮田俊明校長より、提言は、今後自校に生かすアイデアをいただいたと考え実践して欲しいことを冒頭に述べ、「ミドルリーダーをはじめとする教員の育成の具体的な工夫」、「スリム化・効率化について」、「時間の有効活用について」など自身の実践例を交えながら多岐にわたり指導をいただいた。

最後に、本研究大会に参加・提言の機会をいただいたことに感謝し、報告とする。

(課題別研究部長 宮澤 洋一)